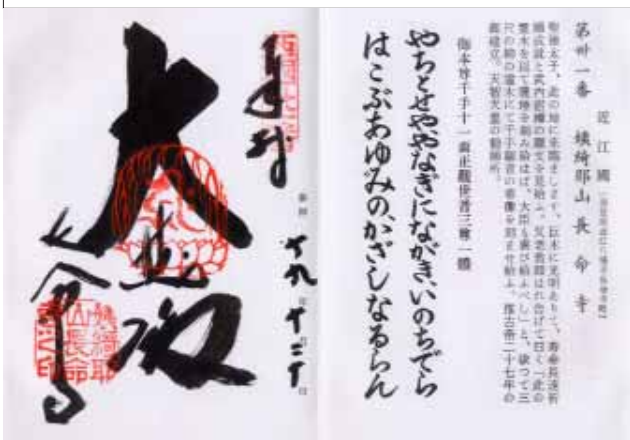
西国三十三霊場巡りマラニッ
第三十一番　姨綺耶山　長命寺

十九年十月九日

フル百回楽走会
５９３
武藤　翔峰

長命寺の宗派は、天台宗（単立）本尊は、千手十一面聖観世音菩薩三尊一体で開基は聖徳太子と伝えられている。十二代景行天皇の代、武内宿彌（たけのうちのすくね）がこの山に上り、『寿命長遠諸元成就』の文字を柳の大木に彫り、長寿を祈願した結果、三百歳の長寿を保ったと伝えられる。その後500年ほどたって、聖徳太子がこの柳の木の前に立つと、白髪老人からの霊感があり、その木で十一面、千手、聖の三体の観音を刻んだといわれており、三尊一体の聖像とされ、本尊として祀り、武内宿彌長寿霊験の因縁で長命寺と名付けたのがこの寺の創始とされている。参道の石段は本堂まで808段あるというが、傾斜の大きい場所が多く、43km走って来た身にはかなり厳しい。「山門」をくぐり更に石段を上がると『長命寺』と彫られた石柱があり、この石柱の背後に「本堂」がある。本堂の東側には「三重塔」、西側には「三仏堂」が建てられている。今日はここから数キロ先の休暇村「近江八幡」に宿泊することになっており、温泉と食べ放題の豪華バイキングが楽しみである。